

「シドニー便り 2. 0」(第21回)

～ 大学生との対話 ～

6月13日

シドニーのいくつかの大学で学生への講義や学生との意見交換会への参加をお願いされることがあります。最近もニューサウスウェールズ大学(UNSW)で一時間程度の講義を行いました。また、NSW 豪日協会(AJS・NSW)の主催による、NSW 州内の大学で優れた日本研究の成果を挙げた学生の表彰式にも参加し基調講演を行いました。



通常、こうした学生へのお話(講義)は、最近の日豪関係や、日本の外交政策の紹介を中心に行いますが、それだけでなく、私なりに学生の皆さまへのメッセージを、講義の最後に何点か伝えるようにしています。日本勤務時代も、大学で講義・講演を行う機会を数多くいただきましたが、常にそうしてきました。

UNSW 大学の講義では、講義の最後に、以下のメッセージを学生に伝えました。

第一に、outgoing mindset、外の世界への関心を持ち続けることの大切さです。私自身、四国の高知県で生まれ育ち、新しい出会いと発見を求めて大学進学は東京を選びました。そしてグローバルな文脈での新たな出会いと発見を求めて、就職は外務省を選びました。心のベクトルは常に外向きだったと思います。新たな出会いは新しい知識と刺激をもたらし、他者との議論や「他流試合」の経験は成長の糧となります。世の中の事象へのアンテナと知的好奇心を高く保ち、自身の知識と発信力を高め、自身のセンスを磨く。こうした意欲を持つことの大切さは、世界共通だと思いますし、若い頃にこそ大事に育むべきマインドだと思います。

第二に、additionality、自分の付加価値(additional value)を常に考えることの大切さです。

100 の結果を出すにあたり、上司がスタッフに 100 を要求していたら、その上司の存在意義はありません。優秀なスタッフが 100 点の答案を出してきたら、それを基に 120 点のプレゼンテーションを行うことを考える。スタッフに時間がない時は、100 の要求に対して彼らが 50 でしか応えられない

ことだってあるでしょう。それを合格点になるように上司が磨きあげ、次のステップに進むことができれば、スタッフは同じ時間でより多くのタスクを実行できることになります。スタッフの成果物に付加価値を付け、限られた時間と人員の中で組織全体のアウトプットを最大化させる。その大切さを、学生の頃から意識して欲しいと思います。

ちなみに、個人が付加価値を与えるための能力、言い換えれば個人の競争力は、世代ごとに変わるという話を聞いたことがあります。その方によると、10代は記憶力、20代は知識、30代は腕・技、40代は人柄(nice であること)、50代は胆力・決断力、60代は健康が、それぞれの世代で人間としての競争力を測る上で大切な要素だそうです。

第三に、accountability です。「平場」の議論の大切さと言い換えることもできます。すべての情報を平場に出して、自分自身の行動が accountable であると自信を持って前に進むこと、そのことを常に意識することは、極めて重要なことです。身の安全を守る上でも重要です。身の周りで起こるすべての事象とそこでの自分の行動は、すべからず情報公開の対象になるという心構えで、責任ある行動を取ることが大切だと思います。

以上、今回は三つの点に触れました。若い世代に説教をするつもりはありませんし、自分の考えを押しつけることもしません。これまで自分が経験してきたことの中から、日本でも、オーストラリアでも、さらには世界の他の地でも、ある程度共通して当てはまりそうなこと、また、未来を担う人材の育成に少しでも役に立ちそうなことを抽出して紹介したつもりです。こうしたメッセージをどのように受け止めて消化するかは、学生それぞれだと思いますし、それで良いと思います。

学生との対話、若い世代との対話を、これからも楽しみたいと思います。

(以上)